

分担研究報告書

2. 職域におけるがん検診精度管理実施のためのがん検診実施 機関用チェックリスト作成研究

研究分担者 齊藤 英子

国際医療福祉大学三田病院予防医学センター 講師

研究分担者 青木 大輔

国際医療福祉大学大学院 教授／赤坂山王メディカルセンター 院長

研究分担者 森定 徹

杏林大学医学部 産婦人科学教室 教授

職域におけるがん検診精度管理実施のためのがん検診実施機関用チェックリスト作成研究

研究分担者 齊藤 英子 国際医療福祉大学三田病院 予防医学センター
青木 大輔 国際医療福祉大学大学院 教授／赤坂山王メディカルセンター 院長
森定 徹 杏林大学医学部 産婦人科学教室 教授

研究協力者 雑賀公美子 佐久医療センター / 国立がん研究センター
川島 恵美 滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター
岡田結生子 慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室

研究要旨

職域におけるがん検診の精度管理向上を目的として、検診実施機関用チェックリスト（CL）案を作成し、その実用可能性を検討した。まず、「職域におけるがん検診に関するマニュアル」および「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づき、職域での検診実施機関用 CL として掲載すべきがん種と検診手法を検討した。その結果に基づき、胃・肺・大腸・子宮頸・乳の5がんを対象に、住民検診用 CL を基礎として職域向け CL に改編した。作成した CL のフィージビリティ確認と、検診実施機関での職域向けの精度管理状況を把握するために、全国の健診・検診実施機関 3,834 施設を対象に Web 調査を行い、762 施設（19.9%）から回答を得た。得られた回答は概ね欠損なく回答されており、十分に使用に耐えることが確認できた。また、多くの施設で推奨される検診方法が実施されていた一方、推奨外手法も実施されていたり、対象年齢や検診間隔の不遵守、受診者への説明不足、プロセス指標の把握・活用不足などの課題があることが明らかになった。住民検診用 CL の大部分は文言修正により職域でも活用可能であり、検診実施機関が自ら点検できるセルフチェック形式として整備し公開した。今後は本 CL の普及を進めるとともに、委託元を含めた精度管理の評価・指導体制の整備が必要である。

A. 研究目的

職域におけるがん検診の精度管理向上の一環として、当該がん検診の委託を受ける検診実施機関が使用できる「検診実施機関用チェックリスト（CL）案」を作成することを目的とした。

B. 研究方法

1. 対象とするがん検診のがん種および検診手法の検討： 職域におけるがん検診に関するマニュアル（以下、職域マニュアル）に記載されているがん検診、および地域保健健康増進事業で実施が推奨され、がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（以下、指針）に記載されているがん検診（以下、住民検診）を対象とし、がん種および検診手法等に基づいて、CL作成対象とすることの妥当性を検討した。

2. CL 案の作成と検証：方法1で選定したがん検診に対して、住民検診で使用されている検診機関用チェックリストおよび仕様書を基礎資料とし、以下を実施した。（1）職域検

診用のがん検診実施機関に求める精度管理項目 CL の作成 （2）上記 CL を用いた職域検診用 Web アンケートフォームの作成 （3）全国の職域 がん検診実施機関を対象としたアンケート調査による使用可能性の検討および現状課題の抽出

調査対象は、健診あるいは検診を提供する医療機関で、わが国の主要な健診代行会社3社の契約先を重複のないよう整理したものであり、アンケート回答依頼は健診代行会社を通じて行った。

C. 研究結果

1. CL作成対象がん種 CL作成が可能と考えられたがん種および検診手法は以下のとおりである。
 - ・ 胃がん：バリウム検査、上部消化管内視鏡検査
 - ・ 肺がん※1：胸部 X 線単純撮影

- ・ 大腸がん：便潜血検査
- ・ 子宮頸がん※2：子宮頸部擦過細胞診単独法
- ・ 乳がん：マンモグラフィー単独法

※1 肺がん検診の検査手法については、研究開始当初の R5 年度時点では、職域マニュアルおよび指針のいずれにおいても「胸部 X 線単純撮影＋喀痰細胞診」とされていたため、当初はこれを CL 作成対象とした。その後、R7 年度に指針から喀痰細胞診の記載が削除されたことを踏まえ、本研究でも「胸部 X 線単純撮影」に改編した。

※2 子宮頸がん検診では、子宮頸部擦過細胞診単独法に加え、HPV 検査単独法が R5 年度から指針に記載された。しかし、HPV 検査単独法はモデル事業的に開始されたものであり、今後大幅な変更の可能性もあったため、本検討における CL 作成対象からは除外した。

2-1. CL 案作成可能性の検討： 住民検診向けの体制を前提とした表現や、職域に適用するには意図が通じにくい表現を調整することにより、「職域検診用 がん検診実施機関に求める精度管理チェックリスト」案の作成が可能であった。

2-2. 職域のがん検診実施機関における精度管理アンケート調査結果： 回答は、3,834 施設中 762 施設（19.9%）から得られた。

(1) がん検診の実施体制

- ・ 大腸がん検診提供機関 722 機関中、便潜血検査を実施している機関は 718 機関（99.6%）であり、指針外かつ職域マニュアル記載外の大腸内視鏡検査を実施している機関は 154 機関（22.7%）であった。
- ・ 乳がん検診提供機関 497 機関中、マンモグラフィーを実施している機関は 449 機関（90.3%）であり、指針外かつ職域マニュアル記載外の視触診は 191 機関（38.4%）、超音波検査は 402 機関（80.9%）で実施されていた。
- ・ 子宮頸がん検診提供機関 417 機関中、医師採取による子宮頸部細胞診を実施している機関は 417 機関（97.2%）であり、指針外かつ職域マニュアル記載外の自己採取細胞診は 33 機関（7.7%）、医師採取 HPV 検査は 210 機関（49.0%）、自己採取 HPV 検査

は 10 機関（2.3%）で実施されていた。以下、指針および職域マニュアルに基づく適切な検診方法を実施している機関を対象に集計した。

- ・ 適切な対象年齢の者に検診を提供している機関の割合は、大腸がん検診 15.9%、乳がん検診 30.1%、子宮頸がん検診 19.4%であった。
- ・ がん種ごとの適切な検診間隔で検診を提供している機関の割合は、大腸がん検診 64.7%、乳がん検診 27.4%、子宮頸がん検診 18.5%であった。

(2) 受診者への説明

- ・ 「すべての受診者」に説明している機関は、大腸がん検診 52.4%、子宮頸がん検診 57.7%、乳がん検診 55.4%であった。

(3) システムとしての精度管理

- ・ プロセス指標の算出について、大腸がん検診では、要精検率、精検受診率を把握している機関の割合、および一切算出していない機関の割合が、それぞれ 36.0%、25.6%、62.2%であった。これに対し、乳がん検診では 50.3%、37.2%、47.4%、子宮頸がん検診では 51.3%、36.5%、46.5%であり、大腸がん検診では他の 2 がん種に比べ把握状況が不良であった。
- ・ プロセス指標を用いた事業評価や改善の実施については、大腸がん検診では 14.3%の機関が積極的に実施、70.2%が可能な範囲で実施と回答した。これに対し、乳がん検診では 20.3%、66.5%、子宮頸がん検診では 16.6%、70.0%であり、何らかの努力を行う姿勢については、3 がん種で大きな差はみられなかった。

3. 汎用化のための CL 提示

上記結果を踏まえ、5 がんに対して検診実施機関が自らセルフチェックできる形式となるよう文言を整備し、CL を提示した（別添 PDF）。

D. 考察

検診実施機関用の CL を職域検診向けに改編することは十分に可能であった。また一部、書き換えが困難な項目があり、それらは今回の CL 案から削除している。書き換え困難な項目として、住民検診における「都道府県の生活習慣病検診等管理指導協議会、市区町村、医師会等から指導・助言等があった場合は、それを参考にして改善に努めているか」がある。書き換え困難な理由は、職域では検診実施機関の精度管理を評価・指導する体制自体が存在しないことであり、

これは職域の精度管理体制の根源的な課題の1つである。また、職域では住民検診において実施主体である市区町村を評価・指導する「都道府県」に相当する役割を担うものもないことから、これらは今後わが国で職域での精度管理を整備していく上で整備が必要である。

アンケート調査の回答率が19.9%に留まった理由として、対象施設には、がん検診を実施していない施設も含まれていた可能性がある。また、回答方法をWebに限定したことから、操作に不慣れな施設から回答が得られなかった可能性や、回答義務を伴わない任意回答であったことの影響も考えられる。このように回答数は限定的であったが、有効回答が得られた施設については、いずれの施設も設問に回答しており、今後このような形式で精度管理調査を実施することは十分可能と考えられた。今後、職域において契約先機関の評価を目的として回答を求める体制が構築されれば、回答率の向上も期待される。

E. 結論

職域におけるがん検診の精度管理を目的とした、がん検診実施機関用CLの作成は可能であり、フィージビリティも期待できる。今後は、その普及を進めるとともに、委託元に対しても活用可能なCLへの見直しを行い、さらに両者のCL結果を踏まえて評価を担う体制整備も必要と考えられる。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 岡田結生子, 雑賀公美子, 立道昌幸, 岡村智教, 齊藤英子: 職域におけるがん検診～職域検診版「事業評価のためのチェックリスト(検診実施機関用)」案の作成～、産業衛生学雑誌、68巻2号、66-77、2026年3月
- 岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 岡村智教, 立道昌幸: 職域検診と住民検診におけるがん検診精度管理の格差是正に向けて一住民検診の検診実施機関要チェックリストは職域検診でも活用できるのか一、日本がん検診・診断学会誌、33巻3号、56-64、2026年3月
- 齊藤英子, 岡田結生子, 雑賀公美子: 組織型検診の実現に向けた検診情報の標準化と集約化の検討一自治体・健康保険組合へのインタビュー調査に基づく提言一、日本がん検診・診断学会誌、33巻3号、46-55、2026年3月
- 磯前有香, 齊藤英子, 前田由衣, 丸山裕実, 齊藤香絵, 五十嵐歩惟, 小菅里美, 奈良千帆, 大金志穂乃, 吉田紀子, 花岡尚海, 桂研一郎: 月経自覚症状の問診に

よる婦人科受診推奨振り分けの効果的手法の検討、日本人間ドック・予防医療学会誌、40巻4号、129-133、2025年12月

- 齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子: HPV検査単独法検診について受診者へ伝えるべきこと、産科と婦人科、92巻11号、1247-1252、2025年11月
- 齊藤英子, 青木大輔: 細胞診を用いた子宮頸がん検診の課題、内科総合誌、42巻9号、1383-1389、2025年8月
- 佐野弘子, 齊藤英子, 上田和, 永吉陽子, 進伸幸, 相田真介: 当院での子宮頸部細胞診ASC-H判定症例の検討一組織診診断結果と照合して一、日本臨床細胞学会誌、64巻4号、175-181、2025年7月
- 磯前有香, 齊藤英子, 五十嵐歩惟, 桂研一郎, 健診施設におけるがん検診での確実な精検受診実現のためのシームレス勧奨の効果一子宮頸がん検診要精検者を例に一、日本人間ドック予防医療学会誌、39巻4号、598-602、2024年
- 岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子, がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み一子宮頸がん検診を例に一、日本がん検診診断学会誌、31巻3号、35-41、2024年
- 齊藤英子, 雑賀公美子, 小田瑞恵, 木口一成, 植松孝悦, 佐々木寛, 青木大輔: 検診機関における検診委託元別のがん検診精度管理状況一乳がん検診での検討一、日本がん検診診断学会誌、30巻3号、45-54、2023年
- Eiko Saitoh, Aoki, Kumiko Saika, Kazushige Kiguchi, Tohru Morisada, Daisuke Aoki: Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data・J Gynecol Oncol・2023・34(2): e14(10.3802/jgo.2023.34.e14)
- Toshio Ogawa, Hirokazu Takahashi, Hiroshi Saito, Motoyasu Sagawa, Daisuke Aoki, Kazuo Matsuda, Tomio Nakayama, Yoshio Kasahara, Katsuaki Kato, Eiko Saitoh, Tohru Morisada, Kumiko Saika, Norie Sawada, Yasushi Matsumura, Tomotaka Sobue: Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study・JCO Glob Oncol・

2. 学会発表

1. 齊藤英子・e-learning によるがん検診の仕組みの理解と集計データ解析による精度管理の評価の実践・第 84 回日本公衆衛生学会総会・2025 年 10 月
2. Eiko Aoki, Kumiko Saika, Tohru Morisada, Daisuke Aoki · EVALUATION OF JAPAN'S IMPLEMENTATION OF HPV PRIMARY SCREENING USING EU RECOMMENDED LISTS · The 37th International Papillomavirus Conference · Oct.2025
3. 横山良仁, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔・HPV 陽性+細胞診 NILM の経過: 文献レビュー・第 34 回日本婦人科がん検診学会総会学術講演会・2025 年 10 月
4. 佐野弘子, 齊藤英子・地域住民検診における子宮頸がん検診で、細胞診判定に占める ASC-US の割合が増加すると精密検査受診が低下するか?・第 34 回日本婦人科がん検診学会総会学術講演会・2025 年 10 月
5. 齊藤英子・わが国の子宮頸がん検診の「受診」における課題ー今こそ all Japan での取り組みをー・第 34 回日本婦人科がん検診学会総会学術講演会・2025 年 10 月
6. 齊藤英子・アカデミックセッション「婦人科がん」① がん予防を志向したときの婦人科がんの特徴・第 33 回日本がん検診・診断学会総会・2025 年 9 月
7. 岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 青木大輔・自治体と職域におけるがん検診の情報共有の可能性についての検討のためのヒアリング・第 33 回日本がん検診・診断学会総会・2025 年 9 月
8. Eiko Saitoh Aoki · Municipality-Level Correlation of Screening follow-up Rates Between Cervical Cancer Screening and Other Cancer Screenings in Japan · Asian Society of Gynecologic Oncology · Jul. 2025
9. 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔・わが国の子宮頸がん検診では、HPV 検査単独法と細胞診単独法の精度管理レベルにギャップが生じている・第 77 回日本産科婦人科学会学術講演会・2025 年 5 月
10. Eiko Saitoh Aoki, Tohru Morisada, Kumiko Saika, Daisuke Aoki · Systematic Review of Candidate Algorithms for implementing of HPV Testing in Japan's Population-Based Cervical Cancer Screening · Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting · Nove.2024
11. 佐野弘子, 齊藤英子, 永吉陽子, 上田 和, 進 伸幸, 相田真介・当院における子宮頸部細胞診 ASC-H 判定の妥当性の検討ー生検結果の追跡ー・第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会・2024 年 11 月
12. Eiko Saitoh Aoki, Tohru Morisada, Kumiko Saika, Daisuke Aoki · One of the Best Uses of the Checklist in Cervical Cancer Screening · The 36th International Papillomavirus Conference · Nove.2024
13. 齊藤英子, 雑賀公美子・子宮頸がん検診における HPV 検査単独法のアルゴリズム【報告 1】・第 83 回日本公衆衛生学会総会・2024 年 10 月
14. 岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子・職域がん検診実施施設での精度管理実施状況調査の実施可能性に関する検討・第 83 回日本公衆衛生学会総会・2024 年 10 月
15. 齊藤英子, 雑賀公美子, Misha Coleman, Hannah Saunders, Marion Saville・精度管理向上の理念を含有する自己採取 HPV 検査提供のあり方ーオーストラリアのストラテジーからー・第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会・2024 年 10 月
16. 岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和・住民検診と職域検診のがん検診精度管理状況の違い克服へー職域検診用「事業評価のためのチェックリスト (検診機関用)」の作成ー・第 32 回日本がん検診・診断学会総会・2024 年 9 月
17. 齊藤英子・月経自覚症状の問診による婦人科受診推奨振り分けの効率的手法の検討・第 65 回日本人間ドック学会・予防医療学会学術大会・2024 年 9 月
18. 齊藤英子, 雑賀公美子, 斎藤博, 松坂方士・住民検診での都道府県別精検受診率の比較ー子宮頸がん検診と乳がん検診ー公表データを用いた分析・第 66 回日

- 本婦人科腫瘍学会学術講演会・2024年7月
19. 齊藤英子・HPV 検査単独法による子宮頸がん検診-さまざまな委託元へのがん検診提供を念頭においた場合の留意点-・第76回日本産科婦人科学会学術講演会・2024年4月
 20. 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔・「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について・第31回日本CT検診学会学術集会・2024年3月
 21. 富田圭祐, 齊藤英子, 五十嵐歩惟, 磯前有香, 永吉陽子, 上田和, 桂研一郎・当院での子宮頸がん検診における要精検者の精検受診率向上のためのシームレス勧奨・第38回日本女性医学学会学術集会・2023年12月
 22. 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔・HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況・第62回日本臨床細胞学会秋期大会・2023年11月
 23. 齊藤英子・がん検診の評価指標の「可視化プロジェクト」-精検受診率について-・第82回公衆衛生学会総会・2023年10月
 24. 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔・日本の現状は子宮頸がん検診でHPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性が木大輔・地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題・第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会・2023年7月
 31. 岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和・がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み・第31回日本がん検診・診断学会総会・2023年6月
 32. 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔・住民検診における子宮頸がんを含む子宮頸部異常の発見率の特徴・第64回日本臨床細胞学会総会春期大会・2023年6月
 33. 齊藤英子, 木口一成, 小田瑞恵, 植田政嗣, 佐々木寛・検診機関用チェックリスト調査から見える子宮頸がん検診での細胞診精度管理の課題・第64回日本臨床細胞学会総会春期大会・2023年6月
 - ある・第32回日本婦人科がん検診学会・総会・2023年10月
 25. 小田瑞恵, 齊藤英子, 佐々木寛・子宮頸がん検診におけるHPV 検査の役割 —HPV 検査導入に向けたアルゴリズムの試案—・第32回日本婦人科がん検診学会・総会・2023年10月
 26. 齊藤英子・福島原発事故での産業医学的支援実現の際の経験 —手に負えない場合の対応について—・第41回産業医科学会・産業医科大学国際センターシンポジウム・2023年10月
 27. 齊藤英子・職域がん検診はどう変わるか、変えていくか？職域におけるがん検診に関するマニュアルに基づく検診実施機関の精度管理・第64回日本人間ドック学会学術大会・2023年9月
 28. 磯前有香, 齊藤英子, 五十嵐歩惟, 桂研一郎・子宮頸がん検診要精検者における確実な精検受診実現のためのワンストップ勧奨・第64回日本人間ドック学会学術大会・2023年9月
 29. 進伸幸, 齊藤英子, 富田圭祐, 永吉陽子, 上田和, 渋谷亮介, 岡田智志, 片岡史夫, 永松健・若年子宮体癌症例に対する高用量黄体ホルモン療法の治療成績・第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会・2023年7月
 30. 齊藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定徹, 青
 34. 齊藤英子, 小田瑞恵, 木口一成, 佐々木寛, 青木大輔・検診機関における検診委託元別の子宮頸がん検診の精度管理状況—チェックリスト充足率からの検討—・第75回日本産科婦人科学会学術講演会・2023年5月
 35. Eiko SAITOH AOKI, Kumiko SAIKA, Daisuke AOKI・Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan・35th International Papillomavirus Conference・April, 2023

3. その他

講演会・研究会・公開講座

1. 齊藤英子：「がん検診の受診率をめぐる話題と子宮頸がん検診での課題」、第34回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 シンポジウム1、2025/10/4
2. 齊藤英子：「HPV 検査単独法マニュアルを改めて読み解く」、第34回日本婦人

- 科がん検診学会総会・学術講演会 共催
セミナー、
2025/10/4
3. 齊藤英子: 女性労働者の健康管理、東京
科学大学医師会産業医研修会、
2025/8/15
 4. 齊藤英子: 日本における HPV 検査単独
法による子宮頸がん検診の導入、第 67
回日本婦人科腫瘍学会学術講演会・
Asian Society of Gynecologic 2025
(ASGO) ランチョンセミナー、
2025/7/18
 5. 齊藤英子: TOKYO #女子けんこう部 子
宮頸がん検診普及イベント、東京都健
康推進課 子宮頸がん検診普及啓発事
業、2024/12/28
 6. 齊藤英子: HPV 検査単独法導入に向けた
精度管理、厚生労働省 HPV 検査単独法
導入に向けた精度管理支援事業、
2024/9/2, Web 開催.
 7. 齊藤英子: HPV 検査単独法導入に向けた
精度管理、厚生労働省 HPV 検査単独法
導入に向けた精度管理支援事業、
2024/8/30, Web 開催.
 8. 齊藤英子: 女性労働者の健康管理、日
本医師会認定 東京都医師会・東京医科
歯科大学医師会産業医研修会、
2024/8/20, 東京.
 9. 齊藤英子: HPV 検査単独法導入に向けた
精度管理、厚生労働省 HPV 検査単独法
導入に向けた精度管理支援事業、
2024/8/30, 名古屋.
 10. 齊藤英子: HPV 検査単独法導入に向けた
精度管理、厚生労働省 HPV 検査単独法
導入に向けた精度管理支援事業、
2024/8/30, 福岡.
 11. 齊藤英子: 女性労働者の健康管理、東京
医科歯科大学医師会 産業医研修会、
2023/08/14、東京
 12. 齊藤英子: 女性労働者の健康管理、日本
医師会認定 東京都医師会・中央区医師
会産業医研修会、2023/7/2、東京